

令和5年度 業務指標（PI）による自己分析結果 要旨

安全で良質な水

- 適切な浄水処理により、水質管理に関する各指標は良好な数値を示しており、水質基準値に対する安全性は確保されています。引き続き、安全で良質な水の供給に努めます。
- 一方で、近年は突発的な降雨などにより異臭味物質の急激な濃度上昇が多発するなど、粉末活性炭注入による対応が常態化する傾向にあります。そのため、現在企業局では、突発的な水質異常に常時対応できるよう、原水水質の変化を注視するとともに、高度浄水処理の導入を進めています。
- 安全・安心な水道水を県民の皆様継続して供給するため、水質異常の早期発見ができるよう、日頃から河川水質の監視を行い、水質管理の強化に努めていきます。

安定した水の供給

- 県営水道は、給水開始から56年が経過し、今後、水道施設の法定耐用年数超過率の増加が見込まれます。そのため、適切に点検や修繕を行うことで施設の長寿命化を図るとともに、計画的に更新を実施し、安定供給を確保します。
- 水道施設の耐震化を計画的に進めており、各耐震化率の数値は上昇しています。管路については更新時に耐震管に入れ替えることで耐震化する方針ですが、整備に長期間を要することから、優先順位を付け計画的に実施します。
- 浄水場事故割合は低下傾向がみられ、引き続き水道施設の適切な維持管理による事故の低減に努めていきます。今後は各浄水場の供給能力を平準化し、事故時の断水リスクの低減を図っていきます。

健全な事業経営

- 有収水量は横ばい傾向、営業費用は増加傾向にあり、平成11年度から料金を据置いているため、経常収支比率などは減少傾向となっています。
- 近年は水需要が減少傾向にあり、今後の給水収益の増加が見込めない一方で、老朽化施設の更新や耐震化等に係る費用や物価高騰による維持管理費用の増加が見込まれます。適切にアセットマネジメント等を実施し、経営改善に努めるとともに、継続的に料金改定の検討を行う必要があります。
- 近年、水道業務平均経験年数はほぼ横ばい傾向にあります。専門技術やノウハウを確実に継承するため、内部研修を充実させるとともに、熟練技術者から若手技術者へのOJTを推進しています。新型コロナウイルス流行の影響を受けて、従前の集合研修から、オンラインや動画研修、テキスト配布に置き換わる中で、オンライン研修の定着により研修時間は回復傾向となっています。